

第3期 栗東市 子ども・子育て支援事業計画

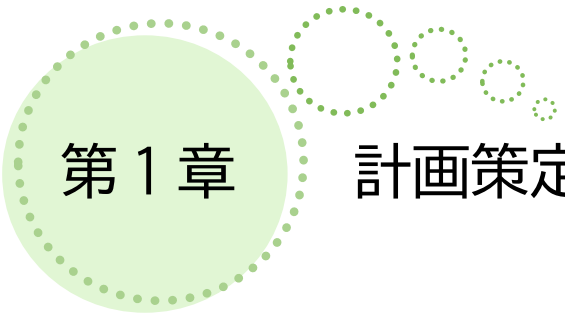
(骨子案)

令和6年4月

栗東市

目次

第1章 計画策定にあたって	1
1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の性格・位置づけ	2
3. 計画の期間	2
4. 計画の策定体制	3
第2章 栗東市の子どもと子育て環境を 取り巻く現状	4
1. 栗東市の人口の動向と推計	4
2. 世帯の動向	9
3. 就業状況	12
4. 栗東市の教育・保育施設等の状況	13
5. ニーズ調査結果からみる子育ての状況	17



第1章

計画策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

近年、共働き家庭の増加による保育ニーズの増大や核家族化の進展、地域のつながりの希薄化など、社会経済情勢の変化を背景とした子育て世代を取り巻く環境の変化によって、子育て世代に子育ての負担や不安、孤立感が高まっています。そのため、子ども・子育て支援を質・量ともに充実させ、安心して子育てを行い、子どもが健やかに成長できる環境を整えることは社会全体の重要な課題となっています。

国においては、令和5年4月にこども家庭庁が発足し、令和5年12月に閣議決定がなされた「こども大綱」は、「こども基本法」に基づき、こども政策を総合的に推進するため、「こどもまんなか社会」という子どもの利益を最優先に考えた政策や取り組みを国の中心に据える社会目標を打ち出し、その実現に向けた、政府全体のこども施策の基本指針として示されました。地方自治体には、子ども・若者、子育て世帯を中心とし、子どもや若者の意見を取り入れながら、ライフステージに応じた切れ目のない子育て支援や貧困・格差が解消された良好な成長環境の整備等を様々な団体と連携し、社会一体となって推し進めていくことが求められます。

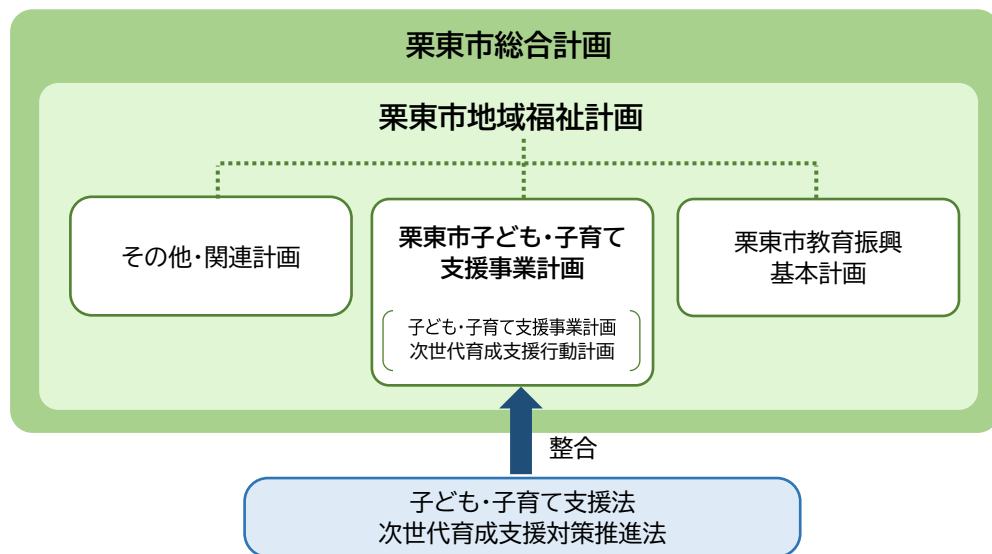
栗東市では令和2年3月に、次代を担う子どもたちの権利と利益が最大限に尊重され、子どもたちが健やかに生まれ育つまち、誰もが安心して喜びと生きがいをもって子育てができるまちの実現をめざし「～子ども・家庭・地域 ともに育つまち りっとう～」を基本理念とする「第2期 栗東市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子ども・子育て支援施策に取り組んできました。

今回、現在の社会情勢等の変化に対応していくとともに、現計画が終期を迎えることを機に、将来の栗東市を担ってくれる子どもたちを一丸となり育み、明るい未来のひらける幸せなまちづくりを目指し、これまで取り組んできた施策を引き継ぐとともに、さらに推進・発展させるため「第3期 栗東市子ども・子育て支援事業計画」を策定します。

2. 計画の性格・位置づけ

本計画は「子ども・子育て支援法」第61条に基づく、市町村子ども・子育て支援事業計画です。また、次世代育成支援対策推進法に基づく市町村次世代育成支援行動計画として、これまでの取組を進めてきた「栗東市次世代育成支援行動計画」を引き継ぐ計画として位置づけます。

なお、本市のまちづくりの総合的指針である「栗東市総合計画」を上位計画として、「栗東市地域福祉計画」など関連する分野別計画との調和と整合性を図り策定します。



3. 計画の期間

本計画は、令和7年度から令和11年度までの5か年を計画期間とします。

ただし、子どもの人口推移や子ども・子育て支援に関するニーズの変化、事業の進捗状況、国の制度の状況を踏まえ、必要に応じ計画の見直しを行い、実態に即した計画の進捗に努めます。

令和 2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
第2期計画期間							中間 見直し		
		中間 見直し	第3期計画策定		第3期計画期間				

4. 計画の策定体制

(1) 「栗東市子ども・子育て会議」での審議

計画策定にあたっては、「栗東市子ども・子育て会議」において、各種調査の実施内容や結果、計画内容などを検討していきます。

(2) 第2期計画の評価

第2期計画の各施策・事業に係る事項について、庁内関係各課や各関係機関に照会し、施策の現状や進捗状況などについての評価・検証を実施していきます。

(3) アンケート調査の実施

就学前児童または小学生のいる世帯の生活状況やニーズ等を把握するためにアンケート調査を実施しました。

(4) パブリックコメントの実施

計画策定にあたっては、ホームページ等において計画案を公表し、市民の皆さんの考えや意見を聞くパブリックコメントを実施する予定です。

第2章

栗東市の子どもと子育て環境を取り巻く現状

1. 栗東市の人口の動向と推計

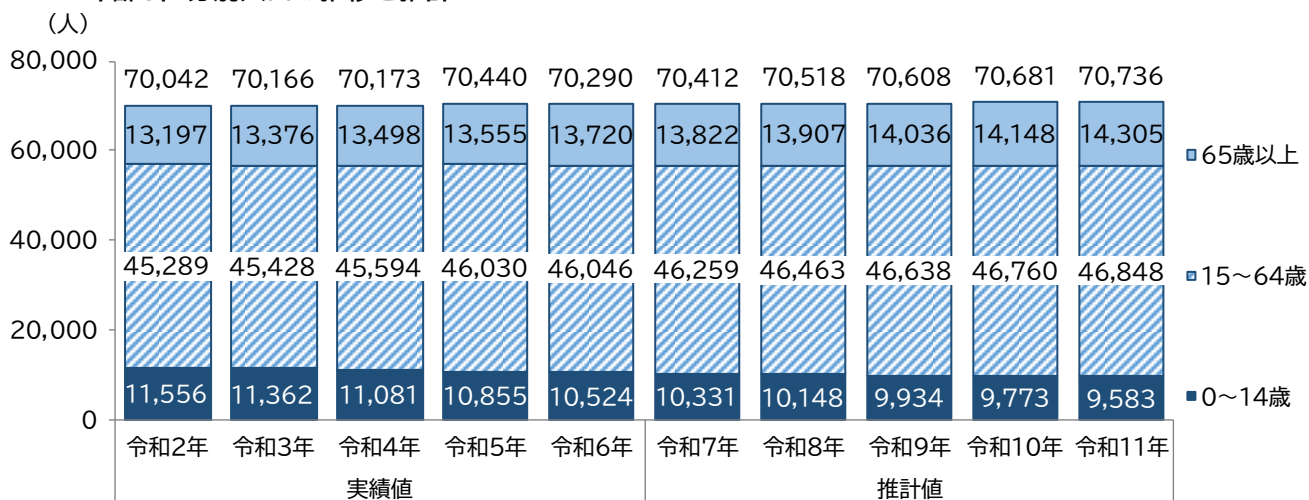
(1) 人口動態

①総人口及び年齢3区分別人口の推移と推計

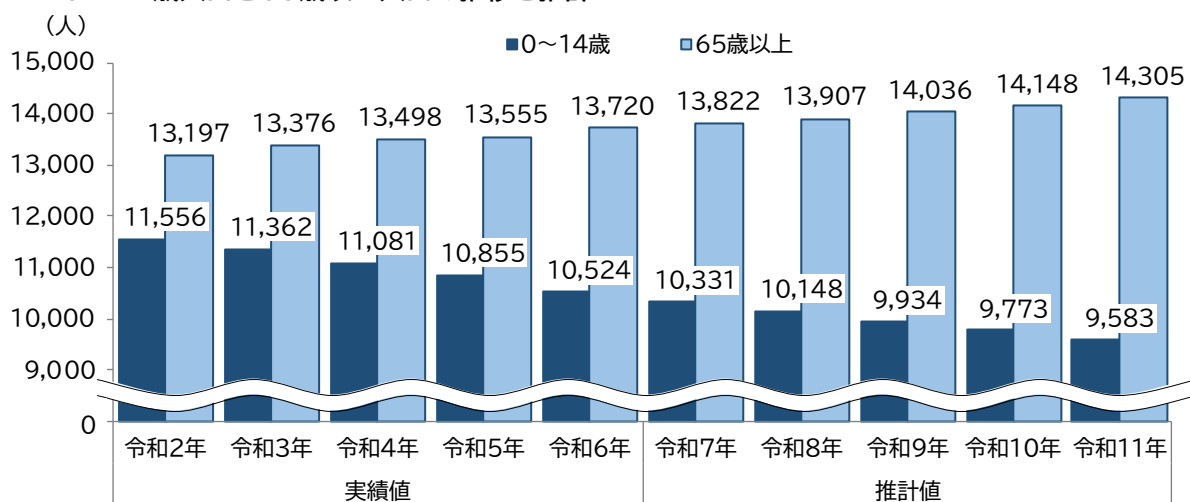
総人口は増加傾向にあり、令和6年で70,290人となっています。

年齢3区分別にみると、14歳以下の年少人口は減少し、15～64歳の生産年齢人口および65歳以上の老年人口は増加しています。コーホート変化率法による将来人口推計では、今後も人口の増加が予測されています。年少人口は減少し、生産年齢人口と老年人口は増加する見込みとなっています。

■年齢3区分別人口の推移と推計



■0～14歳人口と65歳以上人口の推移と推計

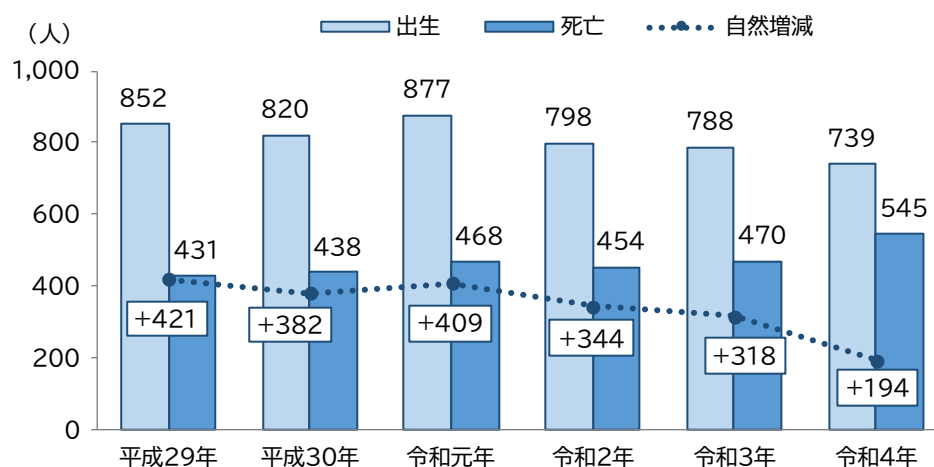


資料：住民基本台帳（各年4月1日）

②出生数・死亡数の推移

平成 29 年以降、出生数が死亡数を上回る自然増の状況が続いています。

■出生数・死亡数の推移

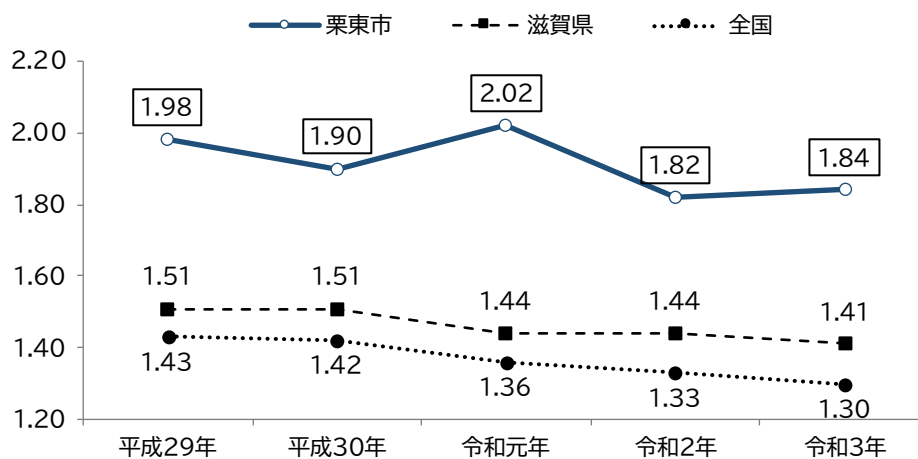


資料：滋賀県「人口動態調査」

③合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は全国、滋賀県を上回っています。令和 3 年は 1.84 となっています。

■合計特殊出生率の推移

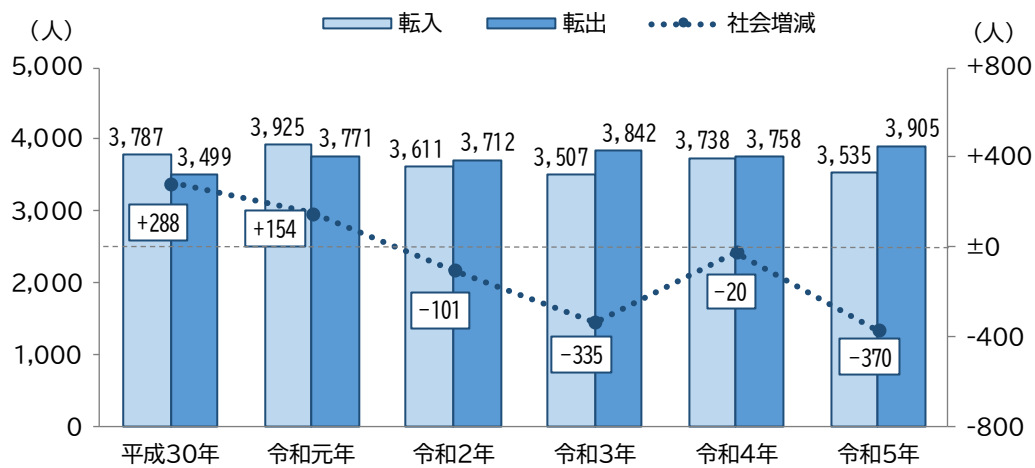


資料：南部健康福祉事務所（草津保健所）「令和 3 年度事業年報」

④転入・転出の状況

転入・転出の状況では令和元年まで転入が転出を上回る状況が続いていましたが、令和2年以降、転出が上回る状況が令和5年まで続いています。

■転入・転出者数の推移



資料：「栗東市統計書」（令和5年度版）

(2) 子どもの人口

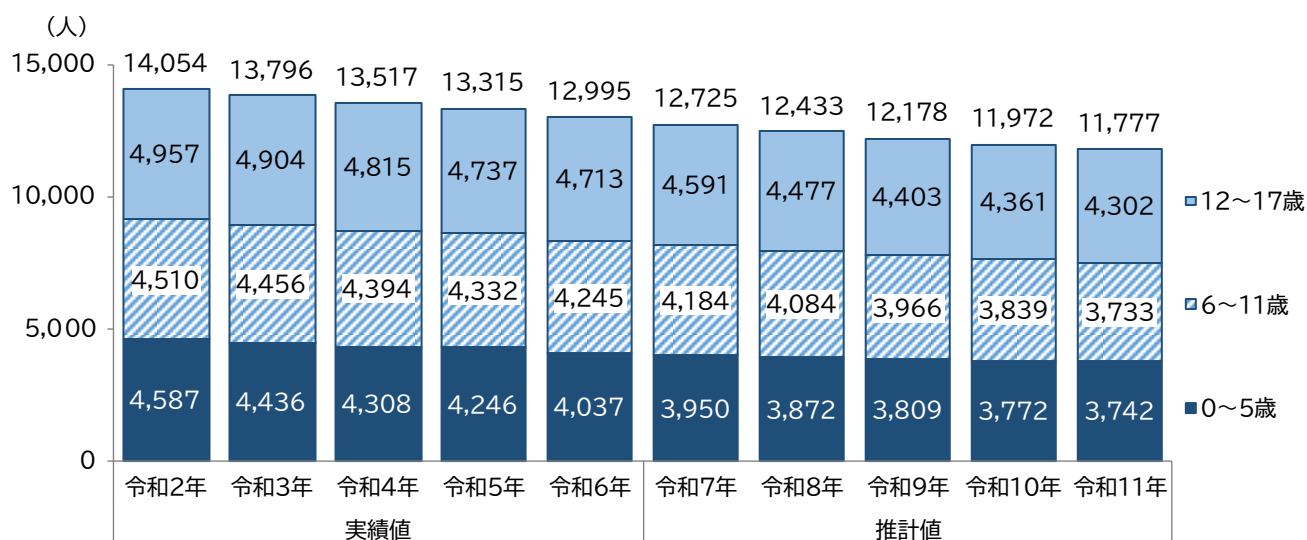
①子どもの人口の推移と推計

17歳以下の子どもの人口は減少傾向にあり、令和6年は12,995人となっています。

年齢別にみると、すべての年齢層において減少しています。

将来推計をみると、子どもの人口は今後も減少が続くと見込まれています。

■子どもの人口の推移と推計



資料：住民基本台帳（各年4月1日）

■各歳別子どもの人口の推移と推計

	実績値					推計値				
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
0歳	815	772	746	750	679	722	713	707	702	697
1歳	784	773	730	723	694	644	685	676	670	666
2歳	752	742	727	700	668	655	608	647	638	633
3歳	747	714	710	701	667	635	623	578	615	607
4歳	729	725	684	689	664	643	612	601	557	593
5歳	760	710	711	683	665	651	631	600	590	546
6歳	733	747	712	685	675	652	639	619	589	579
7歳	701	736	738	712	683	673	650	637	617	587
8歳	773	702	737	734	712	681	671	648	635	615
9歳	743	774	705	737	734	713	682	672	649	636
10歳	761	736	768	701	733	731	710	679	669	646
11歳	799	761	734	763	708	734	732	711	680	670

資料：住民基本台帳（各年4月1日）

②小学校区別就学前（0～5歳）人口の推移

令和5年度の就学前（0～5歳）人口は、いずれの校区でも令和元年度よりも減少しており、特に治田東校区、大宝東校区では100人以上の減少となっています。

年度	治田	治田東	治田西	葉山	葉山東	金勝	大宝	大宝東	大宝西
令和元	943	429	624	429	533	330	541	395	363
令和2	941	380	630	418	545	315	512	352	343
令和3	959	347	608	423	533	276	484	327	351
令和4	968	339	614	435	508	277	497	293	315
令和5	912	322	603	415	438	267	497	260	323

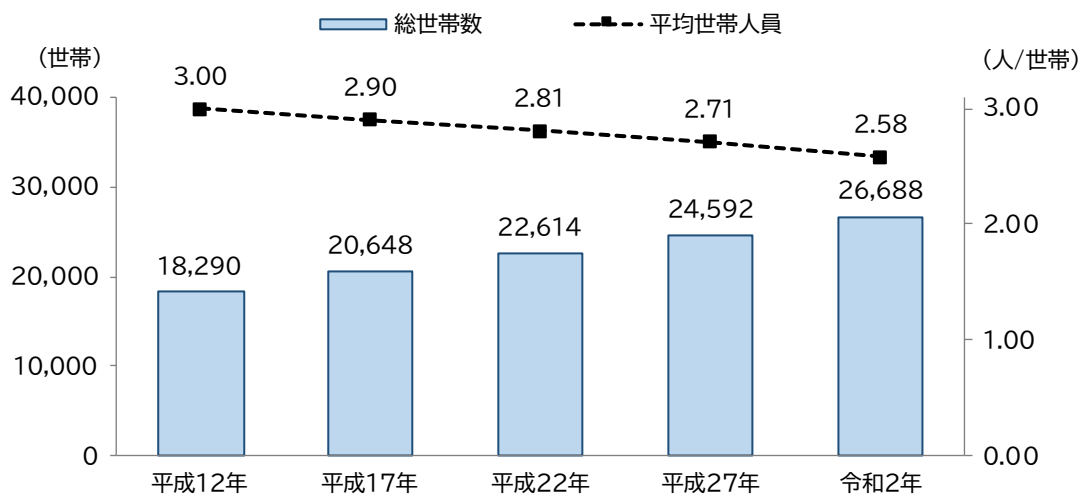
資料：栗東市（各年4月1日）

2. 世帯の動向

①世帯数と平均世帯人員の推移

世帯数は年々増加しています。令和2年は26,688世帯となっており、平成12年に比べて8,000世帯以上増加しています。一方、1世帯あたりの平均世帯人員は年々減少しており、令和2年は2.58人と平成12年より0.42人減少しています。

■世帯数と平均世帯人員の推移

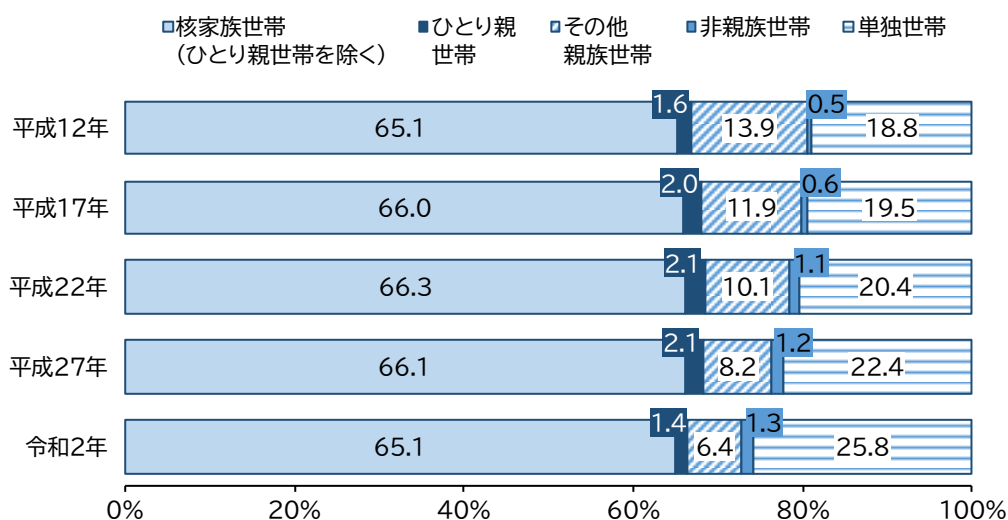


資料：総務省「国勢調査」

②世帯類型別構成割合の推移

世帯構成比率の推移をみると、その他親族世帯の割合が減少し、単独世帯の割合が高くなってきていますが核家族世帯の割合は横ばいで推移しています。

■世帯構成割合の推移

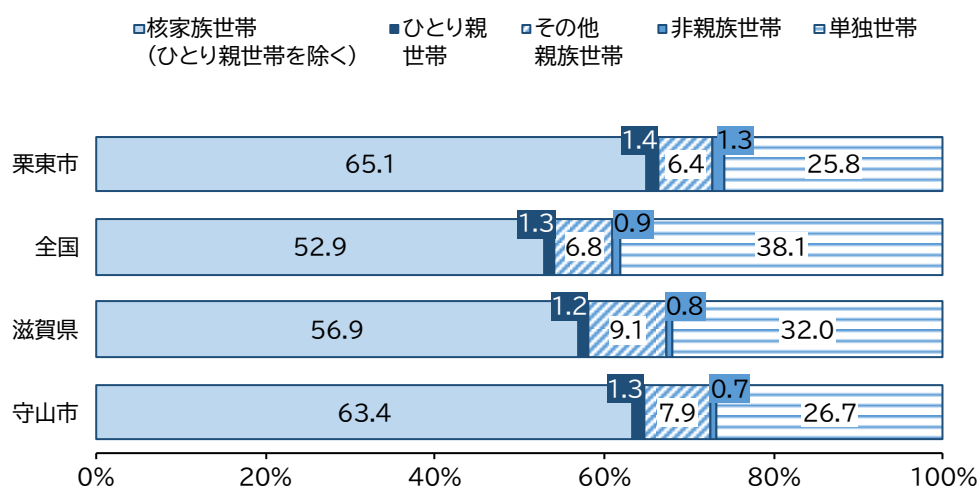


資料：総務省「国勢調査」

③世帯類型別構成割合の比較（令和2年）

令和2年の本市の世帯構成割合を全国や滋賀県等と比較すると、核家族世帯の割合が高くなっています。

■世帯構成割合の比較(令和2年)

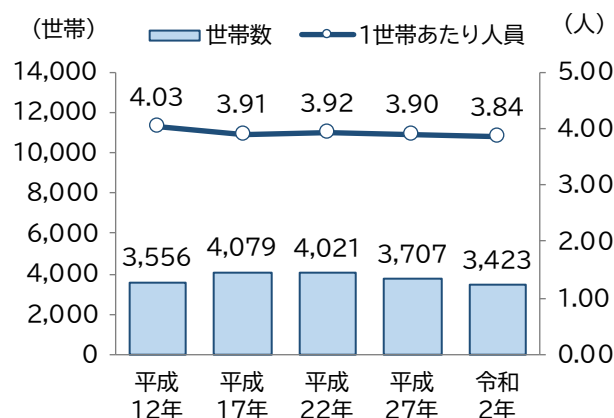


資料：総務省「国勢調査」（令和2年）

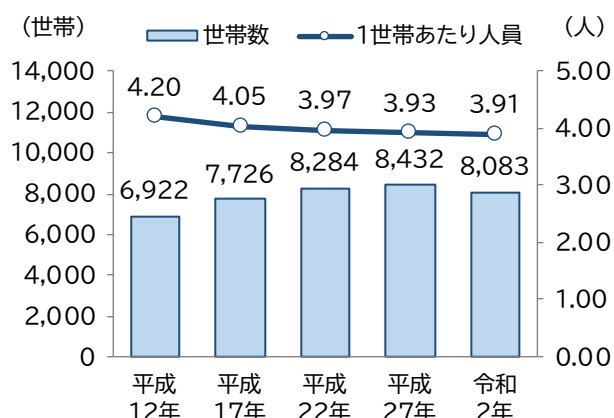
④子どものいる世帯の推移

6歳未満の子どものいる世帯数は平成17年、18歳未満の子どものいる世帯数は平成27年をピークにその後減少に転じています。子どものいる一般世帯の1世帯あたり人員は6歳未満の子どものいる世帯、18歳未満の子どものいる世帯数ともに減少傾向にあります。

■6歳未満の子どものいる世帯数



■18歳未満の子どものいる世帯数

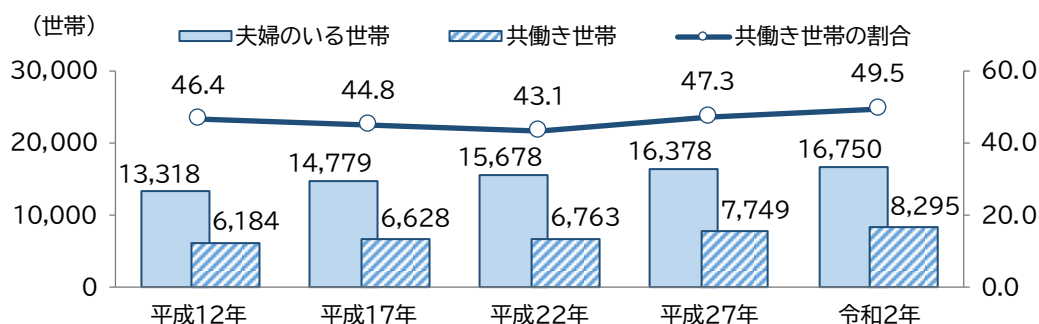


資料：総務省「国勢調査」

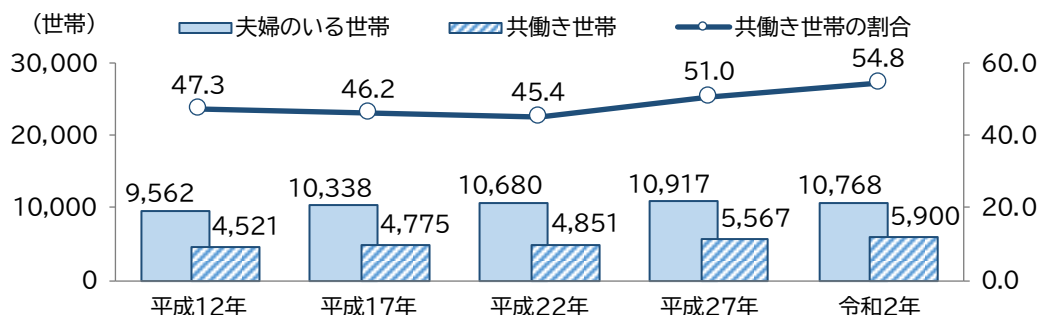
⑤共働き世帯の推移

共働き世帯数は年々増加し、令和2年における共働き世帯数は8,295世帯、夫婦のいる世帯に占める割合は49.5%となっています。子どものいる世帯についても、共働き世帯数は増加が続き、平成27年に50%を超えています。

■共働き世帯数の推移



■子どものいる共働き世帯数の推移



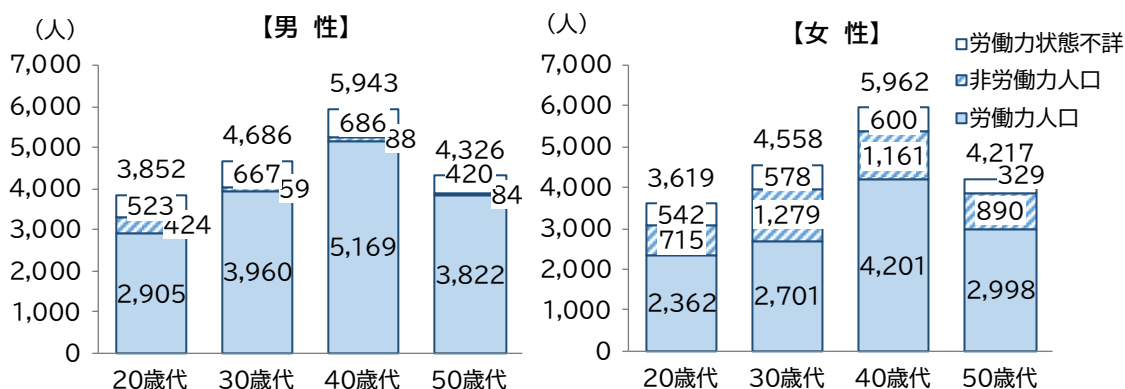
資料：総務省「国勢調査」

3. 就業状況

①男女別年代別労働力状態

男女別年代別の労働力人口は40歳代が男性5,169人、女性4,201人と多く、20歳代、30歳代は40歳代と比べて少なくなっています。非労働力人口は、女性の30歳代で1,279人、40歳代で1,161人となっています。

■男女別年代別労働力状態

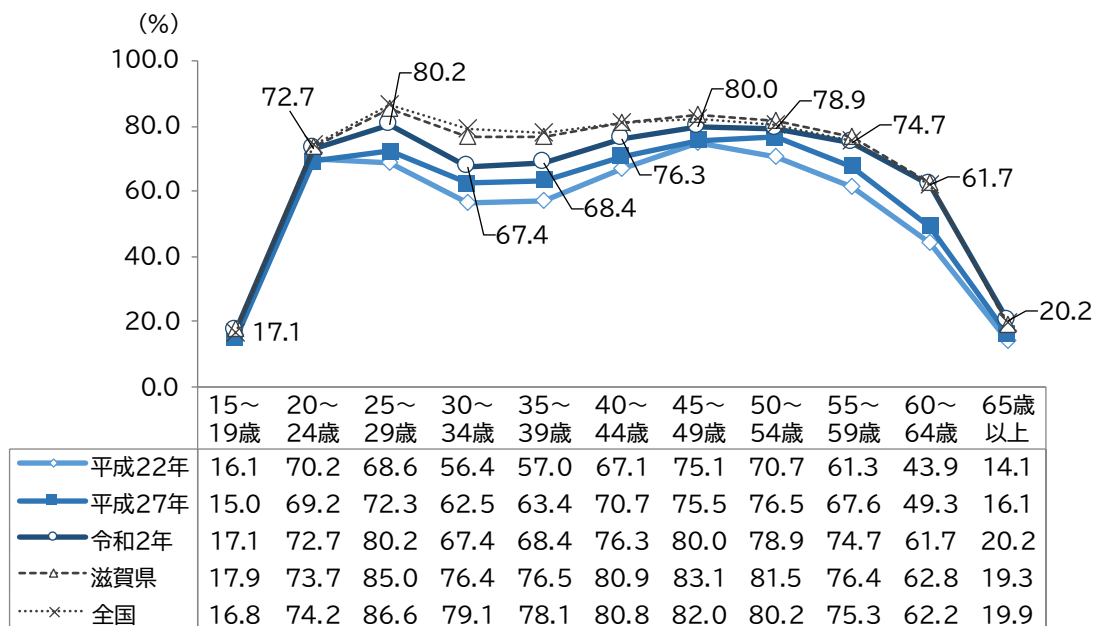


資料：総務省「国勢調査」（令和2年）

②女性の年齢別労働力率の推移

女性の年齢別労働力率の推移をみると、30～39歳で一時的に落ち込む「M字カーブ」の谷は上がってきていますが、滋賀県、全国と比べて30～39歳の労働力率は低くなっています。

■男女別年代別労働力状態



資料：総務省「国勢調査」

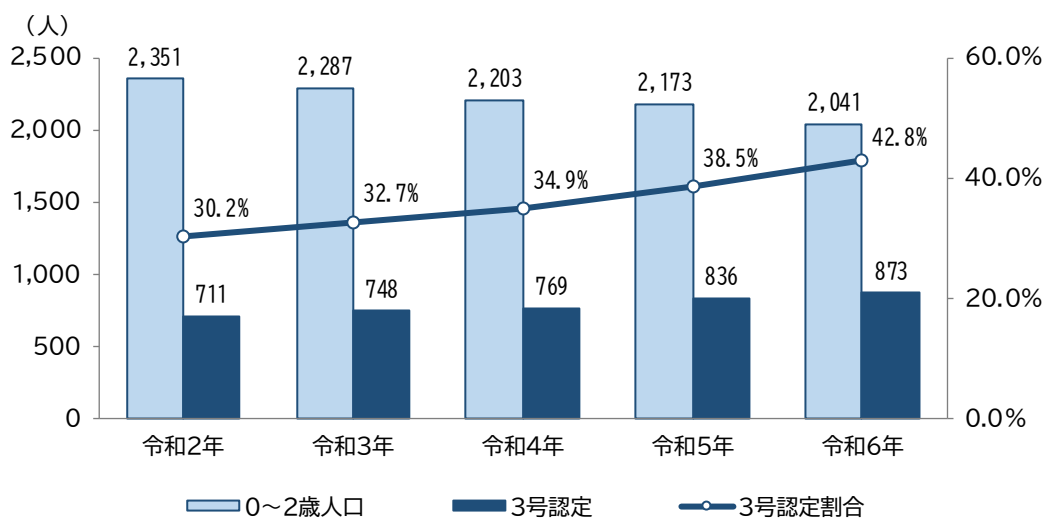
4. 栗東市の教育・保育施設等の状況

(1) 就学前教育・保育の状況

① 0～2歳の認定状況の推移

0～2歳人口の減少が続く一方、3号（保育）認定は増加が続き、3号（保育）認定割合は令和2年の30.2%が令和6年には42.8%と10ポイント以上高くなっています。

■ 0～2歳の認定状況の推移

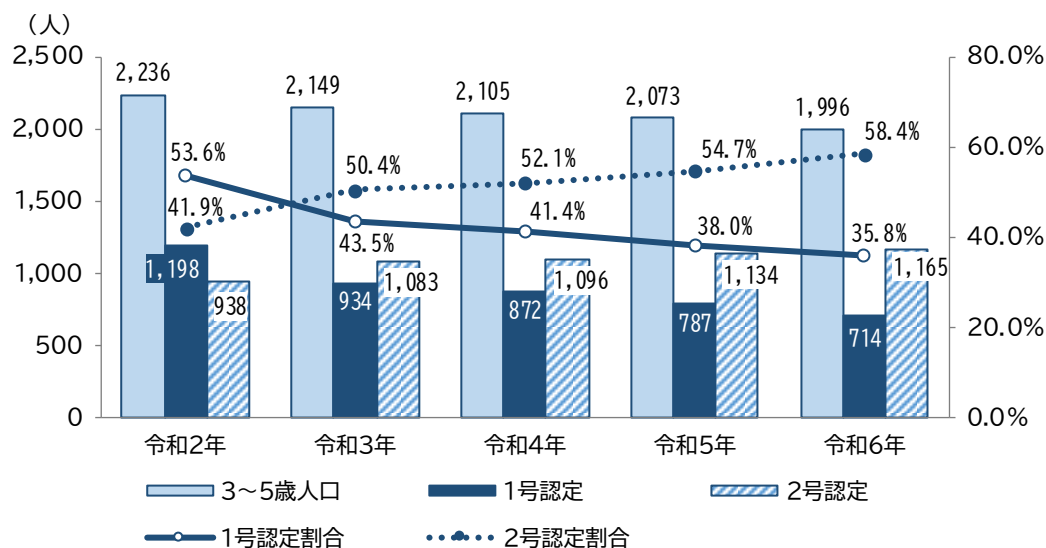


資料：幼児課（各年4月1日）

② 3～5歳の認定状況の推移

3～5歳人口の減少が続くなか、2号（保育）認定の割合は令和3年に1号（教育）認定の割合を上回り、その後も2号（保育）認定の割合は上昇が続いています。

■ 3～5歳の認定状況



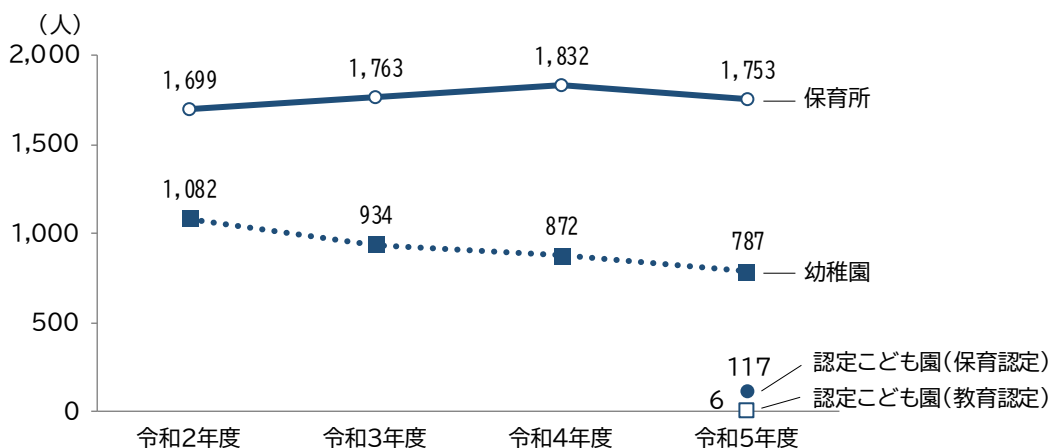
資料：幼児課（各年4月1日）

③ 保育所（園）、幼稚園、認定こども園の在籍者数の推移

保育所（園）、幼稚園、認定こども園の在籍者数の推移をみると、保育所は増加が続いていましたが、令和5年度は保育所から認定こども園への移行により、保育所が1,753人に減り、認定こども園（保育認定）が117人となっています。

幼稚園は年々減少し、令和5年度には800人を下回っています。

■ 保育所（園）、幼稚園、認定こども園の在籍者数



※令和5年度に大宝カナリヤ保育園が認定こども園に移行

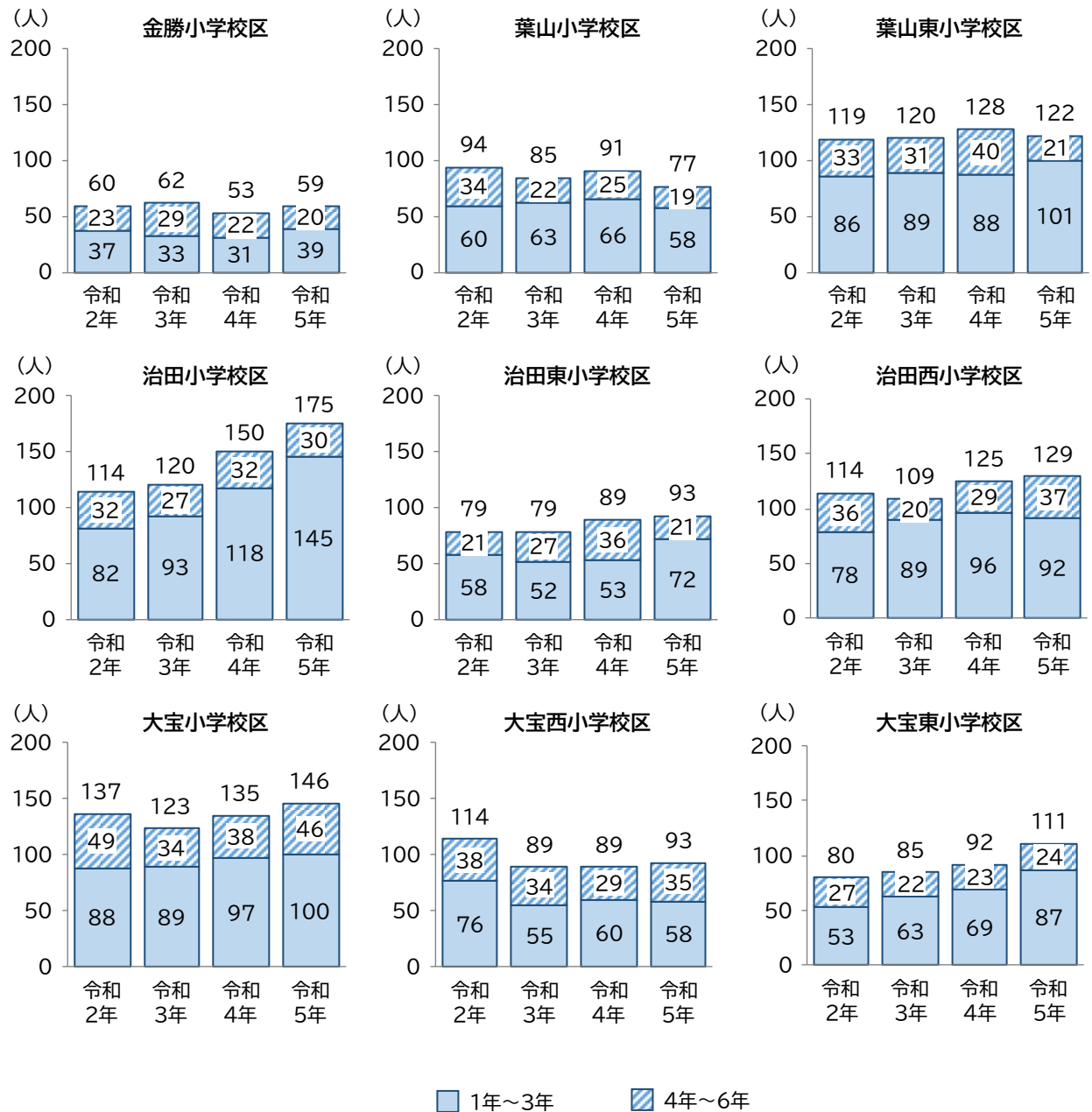
資料：幼児課（各年4月1日）

(2) 学童保育所・児童館の状況

①学区別学童保育所入所者状況

学童保育所入所者は概ね増加傾向にあり、特に治田小学校区では大幅な増加が続いています。

■学区別学童保育所入所者の推移

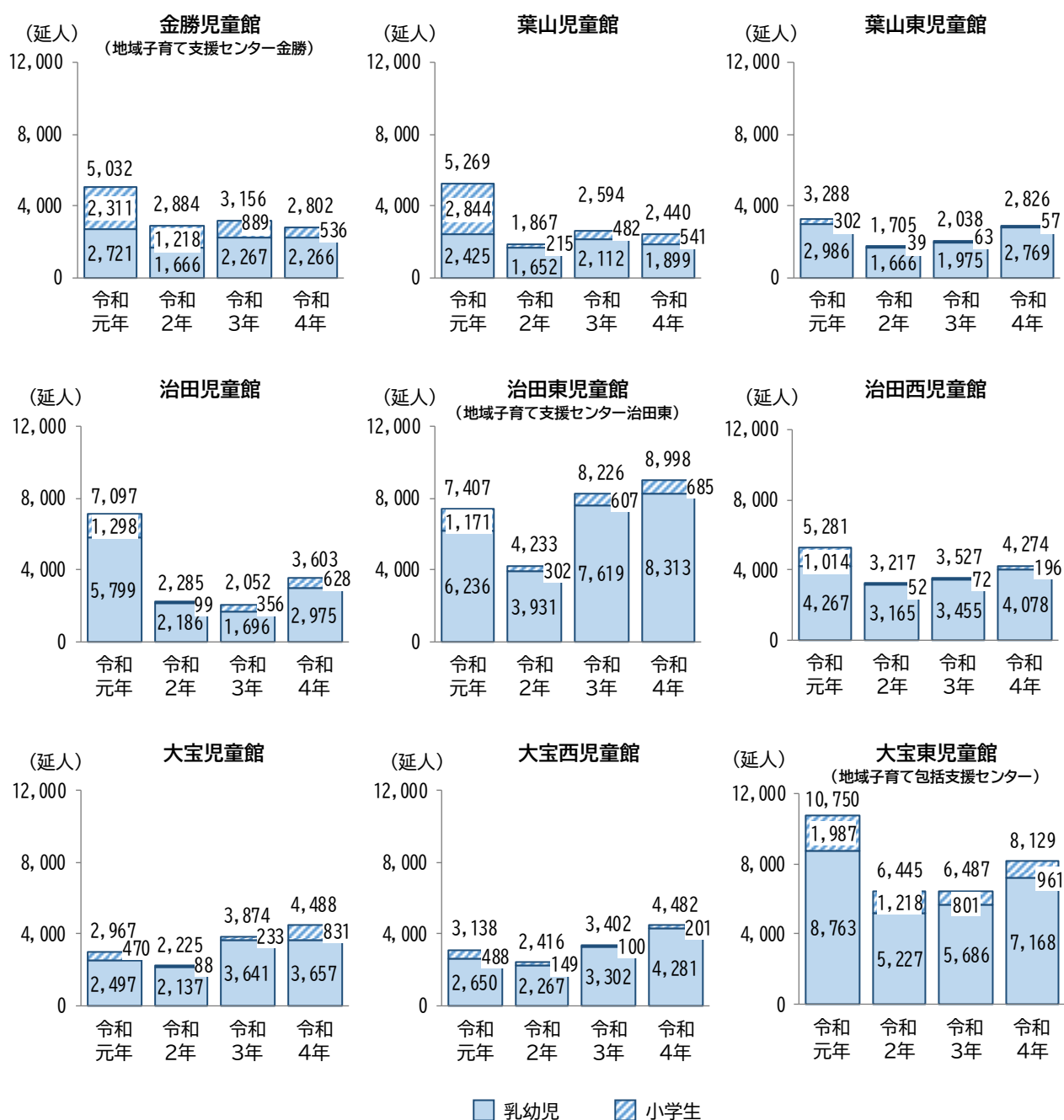


資料：「計画に基づく事業の進捗管理シート」

②児童館利用状況

児童館は令和2年3月～5月にコロナ感染防止対策のため全館休館し、その後は人数制限と開館時間の短縮を行いながら開館しており、令和2年度に大きく減少した利用者数は回復傾向となっています。

■児童館利用者数の推移



資料：「栗東市統計書」（令和5年度版）

5. ニーズ調査結果からみる子育ての状況

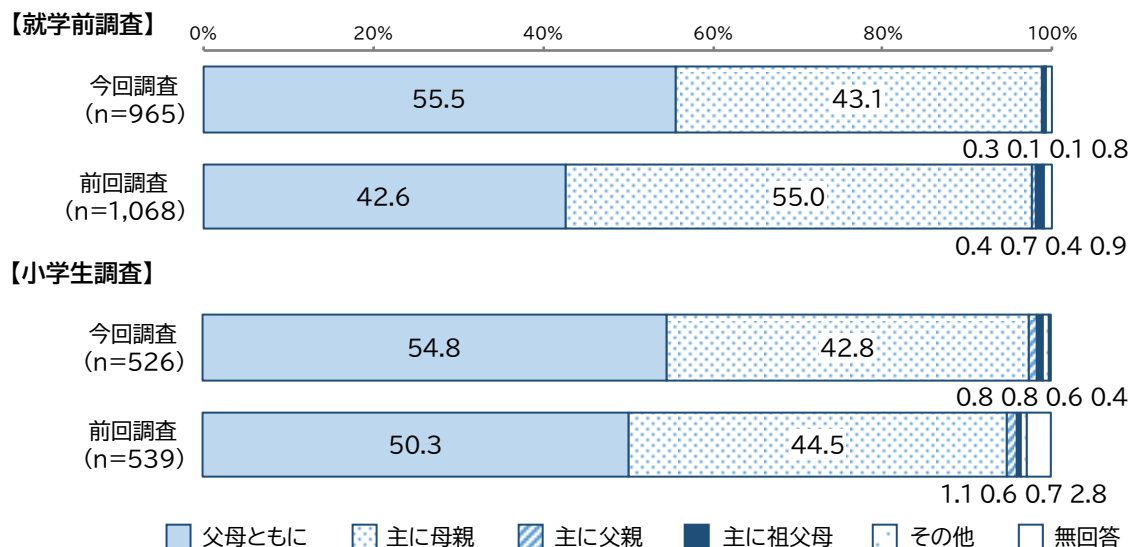
栗東市子育て支援に関するアンケート調査			
対象者	栗東市内に居住する就学前児童の保護者		
実施期間	令和 6 年 2 月 22 日(木) ～ 令和 6 年 3 月 8 日(金)		
配布方法	郵送	回答方法	郵送・Web
配布数	2,000 件	有効回答数/有効回答率	965 件 / 48.2%

栗東市子育て支援に関するアンケート調査			
対象者	栗東市内に居住する小学生の保護者		
実施期間	令和 6 年 2 月 22 日(木) ～ 令和 6 年 3 月 8 日(金)		
配布方法	郵送	回答方法	郵送・Web
配布数	1,000 件	有効回答数/有効回答率	526 件 / 52.6%

(1) 家族の状況と子どもの育ちをめぐる環境について

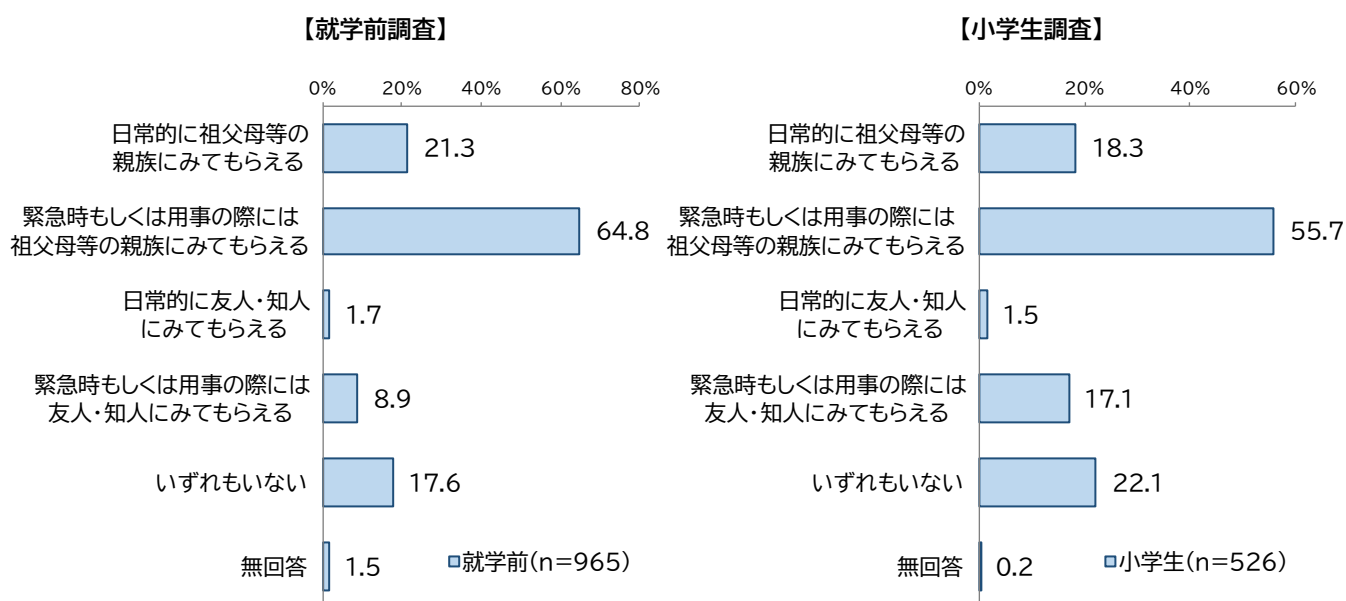
①子育ての主体者

子育てを主に担っている人は、前回調査の就学前では「主に母親」が 50%を超えていましたが、今回調査では「父母ともに」が 50%を超え、「主に母親」の割合を上回っています。小学生でも「父母ともに」の割合が前回調査より増加しています。



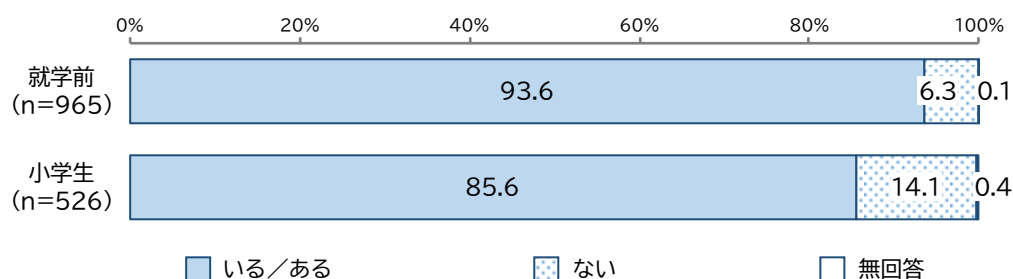
②日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無

就学前では、子どもを祖父母等の親族にみてもらえる割合が、「日常的に」「緊急時もしくは用事の際には」を合わせると80%を超えています。小学生でも、70%以上が祖父母等の親族にみてもらえると回答しています。一方、就学前の17.6%、小学生の22.1%が「いずれもない」と回答しています。



③子育てについて相談できる人・場の有無

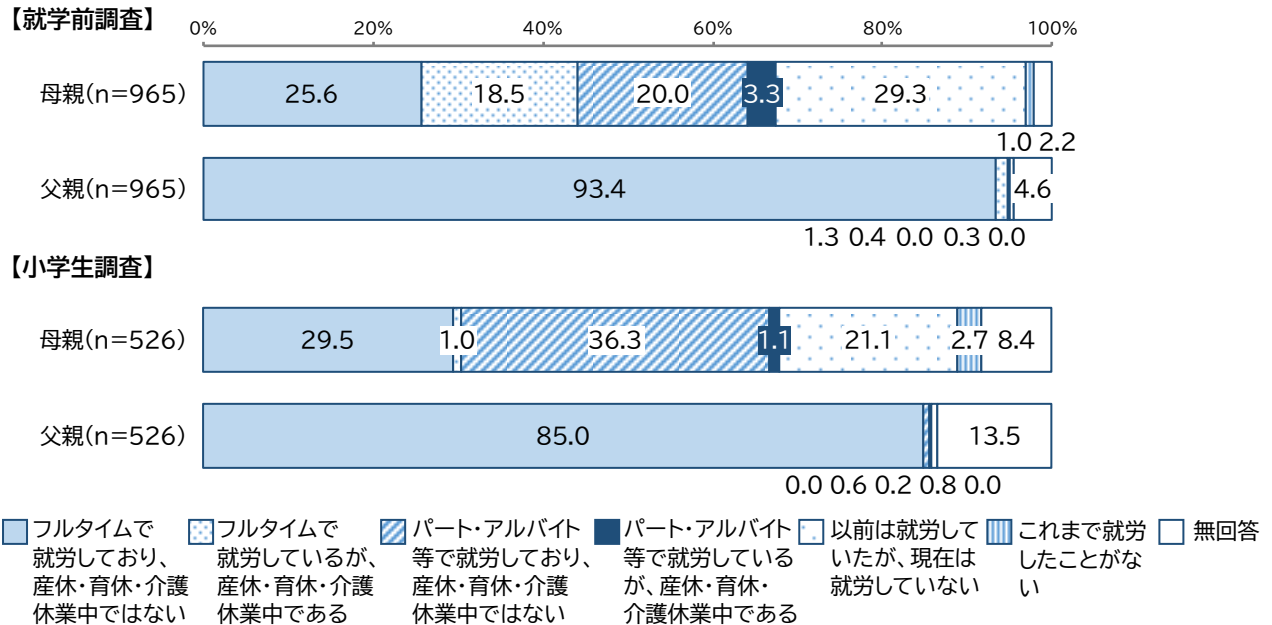
子育てについて気軽に相談できる人や場の有無については、就学前の93.6%、小学生の85.6%が「いる／ある」と回答しています。しかし、就学前の6.3%、小学生の14.1%が「ない」と回答しています。



(2) 両親の就労状況について

①現在の就労状況について

現在の就労状況については、就学前の 25.6%、小学生の 29.5%で母親がフルタイムで働いています。また、小学生の母親では 36.3%がパート・アルバイト等で就労しており、約 3 分の 2 の母親は就労しています。

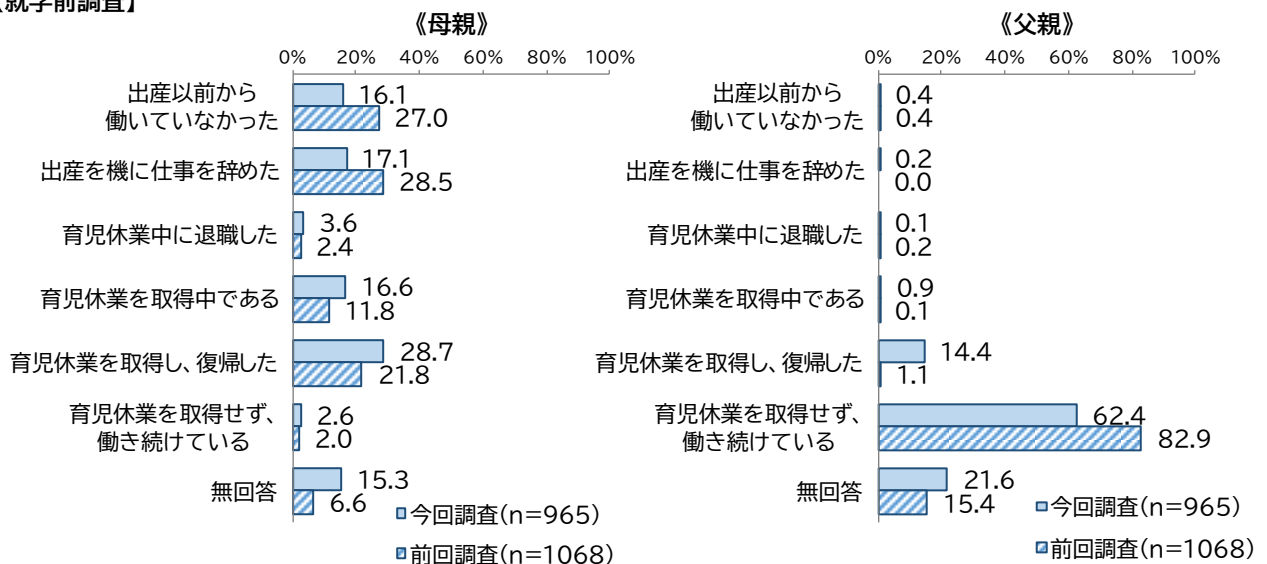


②育児休業の取得について

育児休業の取得については、母親では「育児休業を取得し、復帰した」(28.7%)と「育児休業を取得中である」(16.6%)の割合が前回調査よりも増加し、「出産を機に仕事を辞めた」(17.1%)、「出産以前から働いていなかった」(16.1%)の割合が低下しています。

父親では、今回調査でも「育児休業を取得せず、働き続けている」が 62.4%と多くを占めていますが、「育児休業を取得し、復帰した」(14.4%)の割合が増加しています。

【就学前調査】

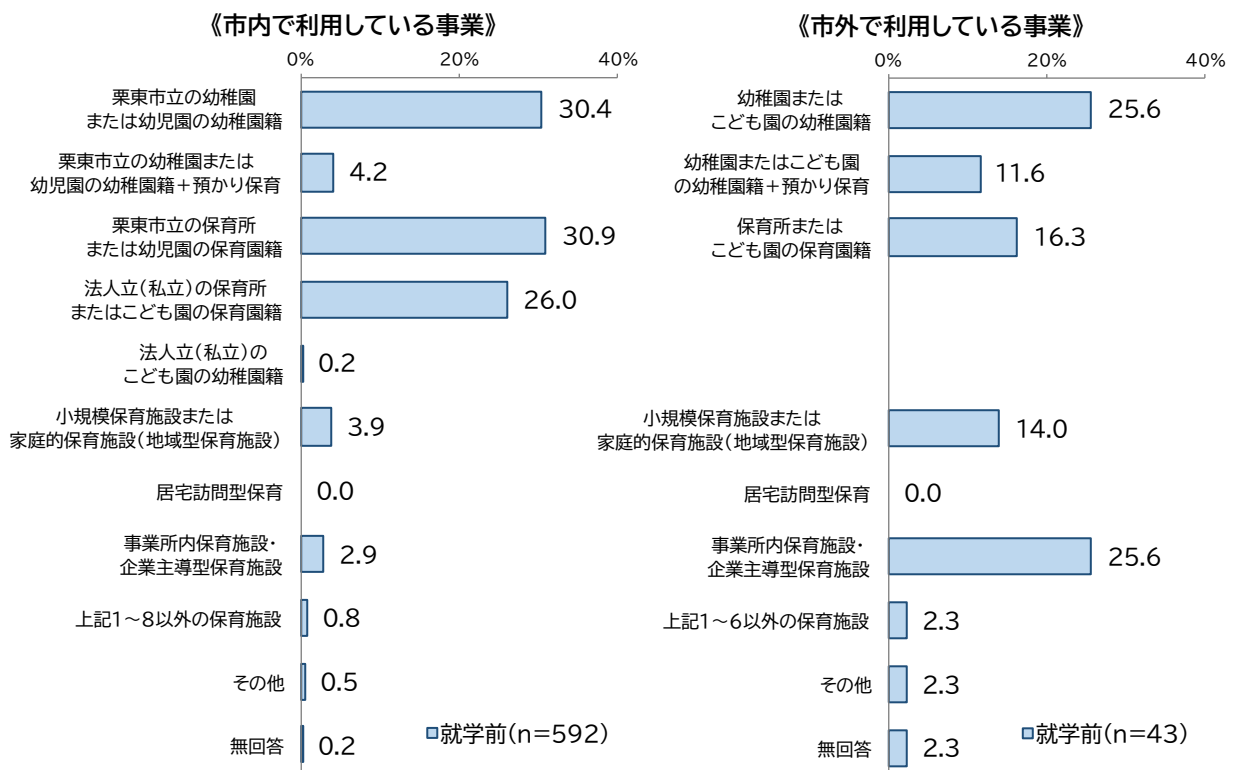
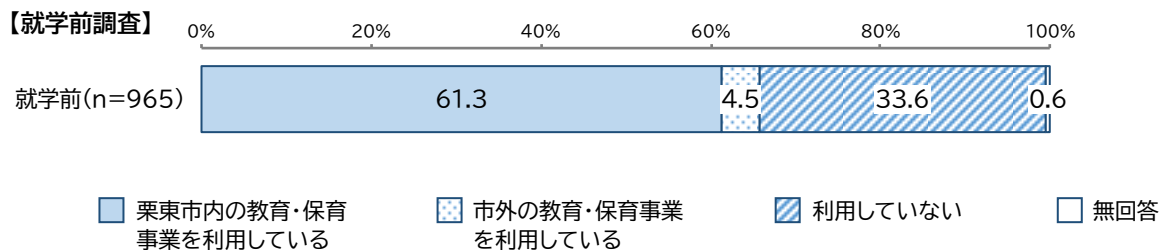


(3) 教育・保育事業の利用状況と利用希望について

①平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

平日の定期的な教育・保育事業の利用については、市内の教育・保育事業を利用している人が61.3%、市外の教育・保育事業を利用している人が4.5%、利用していない人が33.6%となっています。

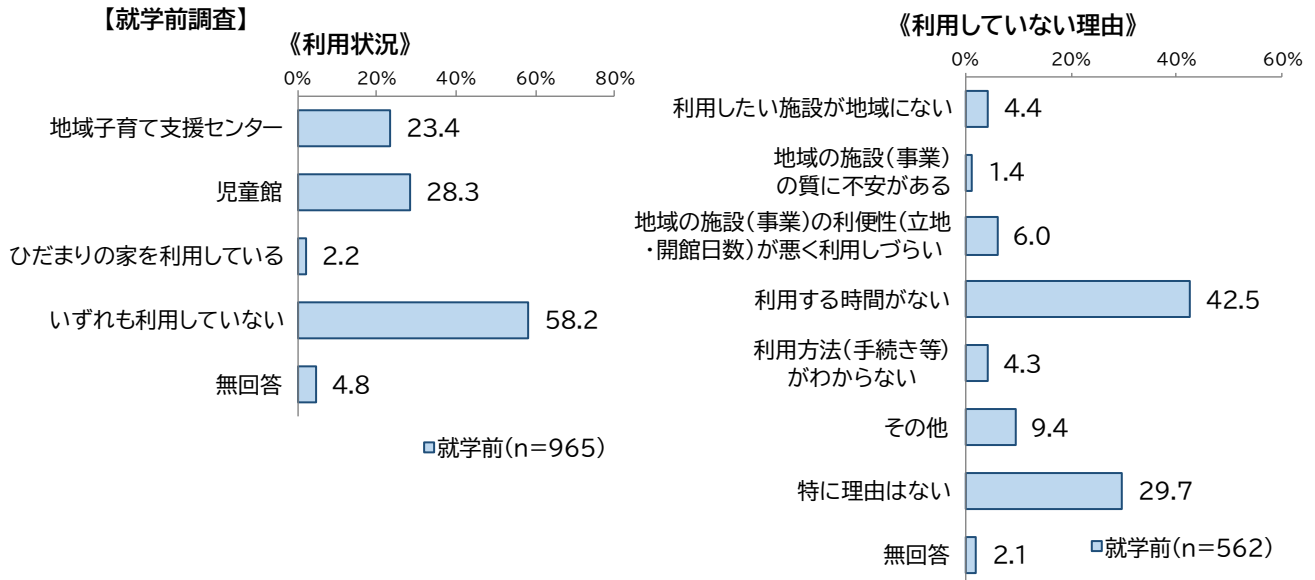
市内の教育・保育事業を利用している人の内訳は「栗東市立の保育所または幼稚園の保育園籍」が30.9%、「栗東市立の幼稚園または幼稚園の幼稚園籍」が30.4%、「法人立（私立）の保育所またはこども園の保育園籍」が26.0%となっています。市外では「幼稚園またはこども園の幼稚園籍」と「事業所内保育施設・企業主導型保育施設」がそれぞれ25.6%となっています。



(4) 地域子ども・子育て支援事業の利用について

①子育て支援センター・児童館・ひだまりの家の利用状況・利用していない理由について

「地域子育て支援センターを利用している」が23.4%、「児童館」が28.3%となっている一方、「いずれも利用していない」が58.2%となっています。利用していない理由については、「利用する時間がない」が42.5%となっています。

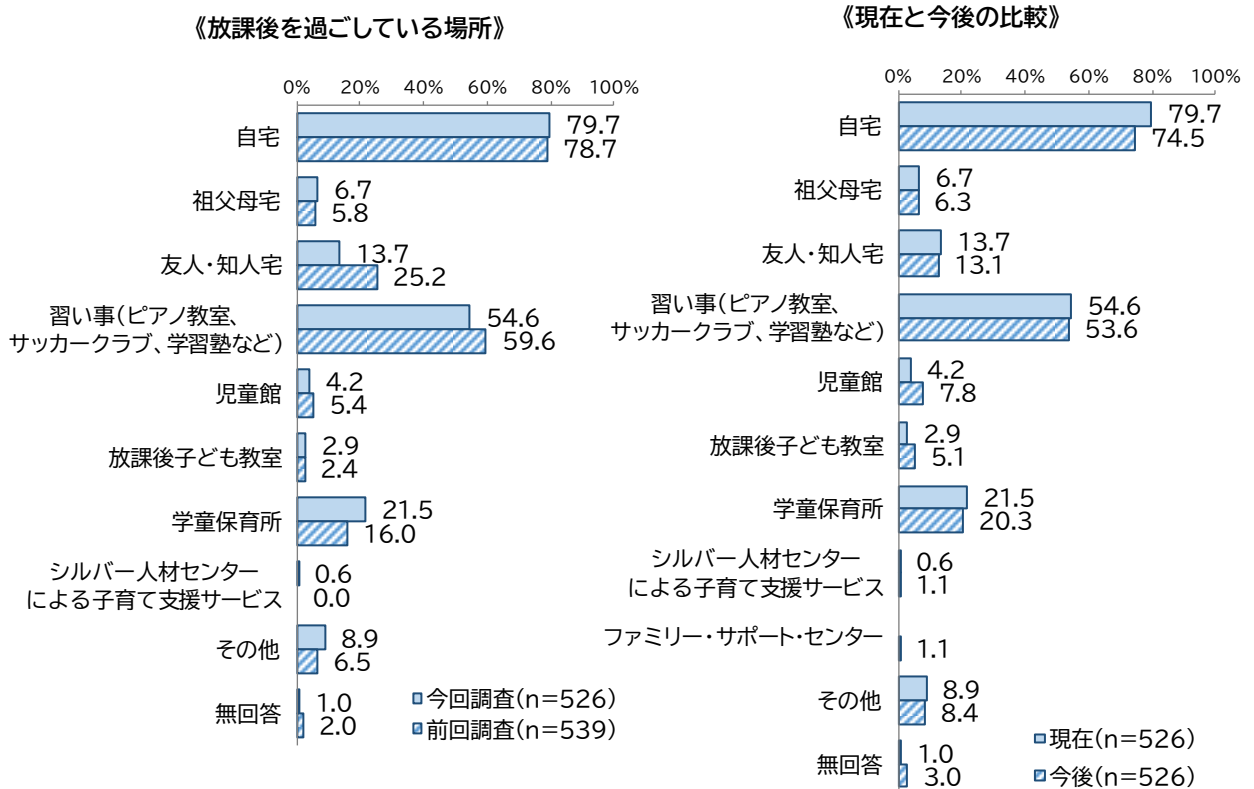


(5) 小学生の放課後の過ごし方について

①放課後を過ごしている場所、今後過ごさせたい場所

放課後を過ごしている場所については、「自宅」が79.7%で最も高く、次いで「習い事」が54.6%となっています。「学童保育所」は21.5%で、前回調査よりも高くなっています。

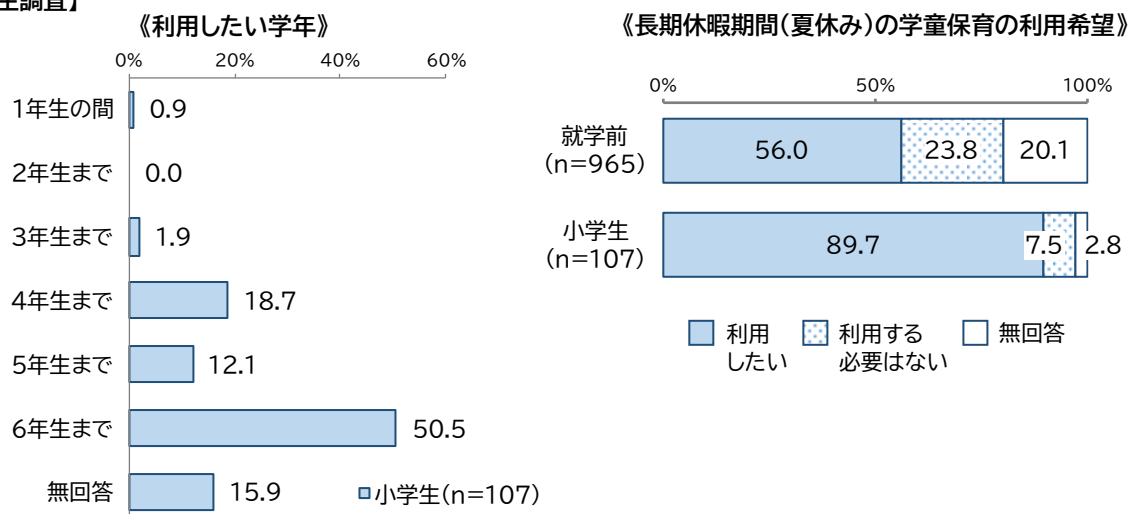
【小学生調査】



②学童保育を利用したい学年、長期休暇期間（夏休み）の学童保育の利用希望

学童保育を利用したい人の中では、6年生まで利用したいという人が最も高く、50.5%となっています。夏休みなどの長期休暇期間中も学童保育を利用したい人は、小学生では89.7%となっています。

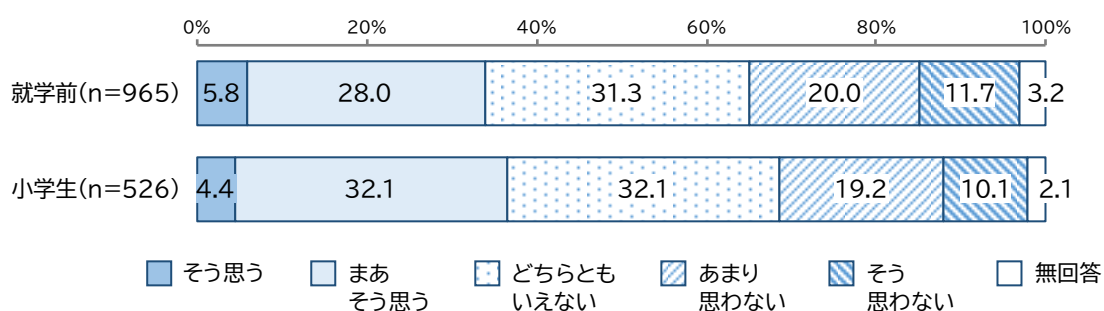
【小学生調査】



(6) 子育て支援全般について

①栗東市は子育てしやすいまちだと思うか

栗東市は子育てしやすいまちだと思うかたずねたところ、「そう思う」と「まあそう思う」の合計が就学前で 33.8%、小学生で 36.5%、「あまり思わない」と「そう思わない」の合計が就学前で 31.7%、小学生で 29.3%となっており、子育てしやすいと考える人のほうが多くなっています。



②子育てについて、特に不安や負担等を感じる事、また気になること

子育てについて特に不安や負担等を感じる事、気になることについては、「子どもの成長に関する事」が就学前 50.8%・小学生 43.3%で最も高く、また、「子育てによる心身の疲れやストレスがたまること」、「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」、「育児の方法に自信がないこと」、「子どもとの時間や家族の時間が十分に取れないこと」の割合が就学前、小学生ともに2割を超えています。

